opale

mapping | Libérez le potentiel des données

Mapping OPALE for IBM i



Mapping Suite V6/V7 から

Mapping Suite OPALE への

移行ガイド

第 3.1 版



● このガイドの目的

このガイドは、既存システム上の Mapping Suite V6 や V7 を、新システム上の Mapping Suite OPALE(オパール)に移行するための手順をガイドすることを目的としています。
既に導入されている Mapping Suite OPALE を新しいリリースに移行する、若しくは別サーバーや別区画に移行するための手順は、「Mapping Suite OPALE 移行ガイド」をご参照ください。
そして、Mapping Suite OPALE の導入や使用方法については、『Mapping Suite OPALE 導入・利用ガイド』をご参照ください。
また、Mapping Suite OPALE 用の帳票設計ツールである、M-Designer(エム・デザイナー)の導入や使用方法は、『M-Designer 導入・研修ガイド』をご参照ください。

● このガイドが想定している読者

このガイドは、Mapping Suite の移行に携わるシステム技術者の方を読者として想定しています。そのため、Mapping Suite に関わるスキルや、IBM i(OS/400)に関わる一定程度のスキルを保有されていることが必要です。

● 目次

第 1 章 作業を開始するための条件を確認する *4*

第 2 章 作業の流れを把握する *5*

A. 作業の概念図 **5**

B. 作業の流れ **5**

第 3 章 移行作業を行う *6*

A. Mapping OPALE をインストールするまで **6**

B. 帳票フォーマットを移行する **8**

C. OUTQ 設定ファイルを移行する **8**

D. ROBOT 設定を移行する **8**

E. SORTSIZUTF ファイルの CCSID を確認して、必要な場合は移行する **10**

F. ジョブ記述を確認して、追加されたジョブ記述があったら追加する **11**

G. M-Designer をインストールし、設定する **20**

H. フォーマットの取り込みテストを行う **21**

第 4 章 稼働確認テストを行う *30*

もし問題があったら **30**

Mapping OPALE への移行チェックリスト兼作業報告書 *31*

変更の履歴 *33*

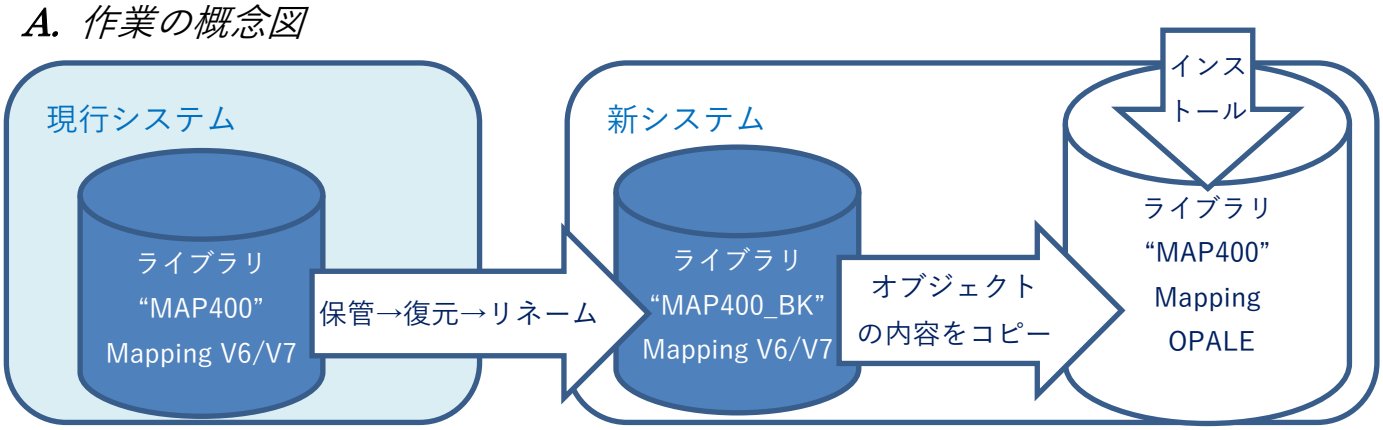
第 1 章 作業を開始するための条件を確認する

この資料では、現行システム上で Mapping V6/V7 を使用されているお客様が、新システムへの移行に合わせて、Mapping Suite OPALE にバージョンアップする場合を想定しています。
初めに以下の条件が満たされているかを確認します。

1. 現行システム上の Mapping のライブラリ(通常は ”MAP400”)とその関連ライブラリ、及び、IFS 上の /home/ 以下にある Mapping 関連フォルダーやファイルは、新システムに復元されているものとします。
2. 初めに、復元された”MAP400”ライブラリを”MAP400_BK”にリネームしますが、その際に”MAP400” ライブラリが使用中でロックされているとリネームできません。そこで、
   WRKOBJLCK OBJ(MAP400) OBJTYPE(*LIB)
   を実行して、使用中のジョブがあるかを確認し、あった場合にはお客様に使用停止を依頼します。
   その上で、
   DSPSYSVAL SYSVAL(QUSRLIBL)
   を実行して表示された画面に、"MAP400"があった場合には、やはりリネームできません。その場合は、”MAP400”を削除してシステムを再起動するようお客様に依頼します。
   注) 移行作業終了後は、”MAP400”を追加して、元の状態に戻すようお客様に依頼します。
3. この資料では、新システムに導入する Mapping OPALE のバージョンは、V10.12.10.40850 を使用としています。
4. 新システムには 、Mapping OPALE が必要とする OUTQ “PRT01” の他にも、現行システムで使用している全ての OUTQ があるものとします。
5. 移行作業中は、新システム上の Mapping は使用できません。
6. 新システムに Mapping OPALE をインストールするために使用するユーザーID は、”QSECOFR” 等の *SECOFR 権限が必須です。
7. ジョブの CCSID は ”5035” を指定します。
8. Mapping OPALE インストール用プログラムのファイルを、新システムに FTP 送信するための PC が必要です。
9. 新システムに対応した、Mapping OPALE のライセンスキーが必要です。
10. 新システムの OS(IBM i)のバージョンは、V7R1 以降が必要です。
11. 新システムのディスクの空き容量には、2GB 必要です。
12. 所要時間は、FTP 送信の所要時間と再生成するフォーマットの数によって大きく異なります。なお、システムの停止や再起動は不要です。

第 2 章 作業の流れを把握する

A. 作業の概念図

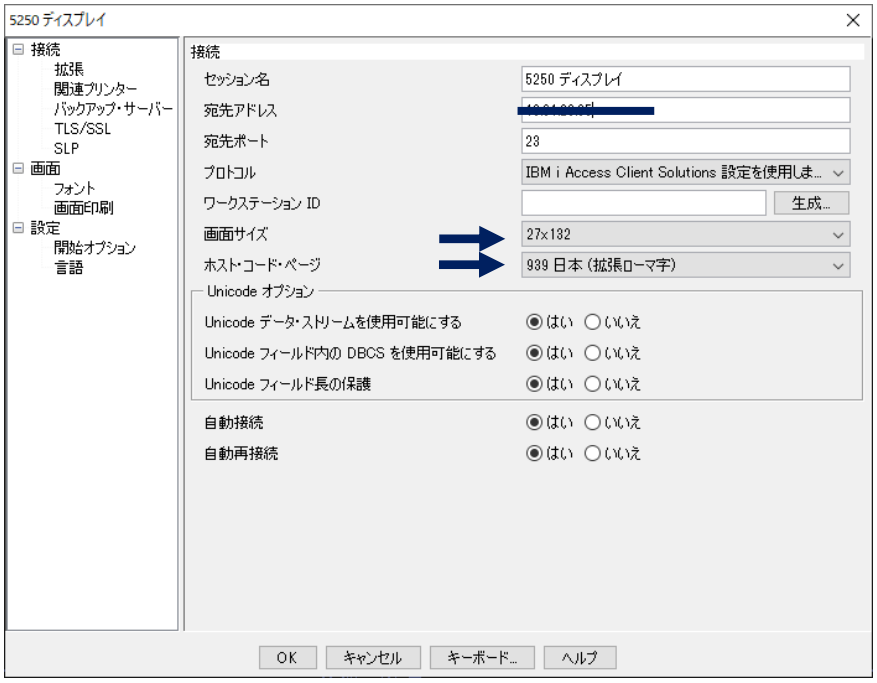


B. 作業の流れ

1. 新システム上に復元された Mapping Suite の ROBOT が停止していることを確認します。
2. バックアップのために、復元されたライブラリのライブラリ名、例えば ”MAP400” を ”MAP400_BK” にリネームします。
3. Mapping Suite OPALE を、現行システムで使用していた Mapping Suite のライブラリ 、例えば ”MAP400” にインストールします。
4. 現行システムから復元してリネームしたライブラリ、例えば ”MAP400_BK” にある次のオブジェクトの内容を、Mapping Suite OPALE をインストールしたライブラリ、例えば ”MAP400” にコピーします。
   - フォーマットのオブジェクト
   - MAPOUTQ ファイル
   - ROBOT 関連の設定用オブジェクト
5. データキューはコピーできないため、”編集” を行って、再作成します。
6. SORTSIZUTF ファイルの CCSID を確認して、必要な場合は移行します。
7. お客様が独自に追加したジョブ記述、ジョブ待ち行列がある場合には、それらを作成します。
8. PC に M-Designer をインストールし、新システム用に設定します。
9. プロジェクト・ファイルを一つ選択して、M-Designer からプロジェクトの生成を行い、フォーマットの取り込みを行います。もしエラーが発生して取り込みできなかった場合には、運用に必要なフォーマットの再作成を行います。
10. Mapping Suite OPALE の ROBOT を起動し、既存システムと同じ操作をして、同じ結果が得られるかテストを行います。

第 3 章 移行作業を行う

A. Mapping OPALE をインストールするまで

1. 5250 画面セッションの、通信→構成を選択して表示される画面で、”画面サイズ”は、「27x132」、”ホスト・コード・ページ”に「939」か「1399」を指定して、新システムと接続します。
   <IBM ACS の画面例>
   

2. QSECOFR 等の *SECOFR 権限を持つユーザー ID でログインします。
3. 次のコマンドを実行して、ジョブの CCSID を”5035”に設定します。

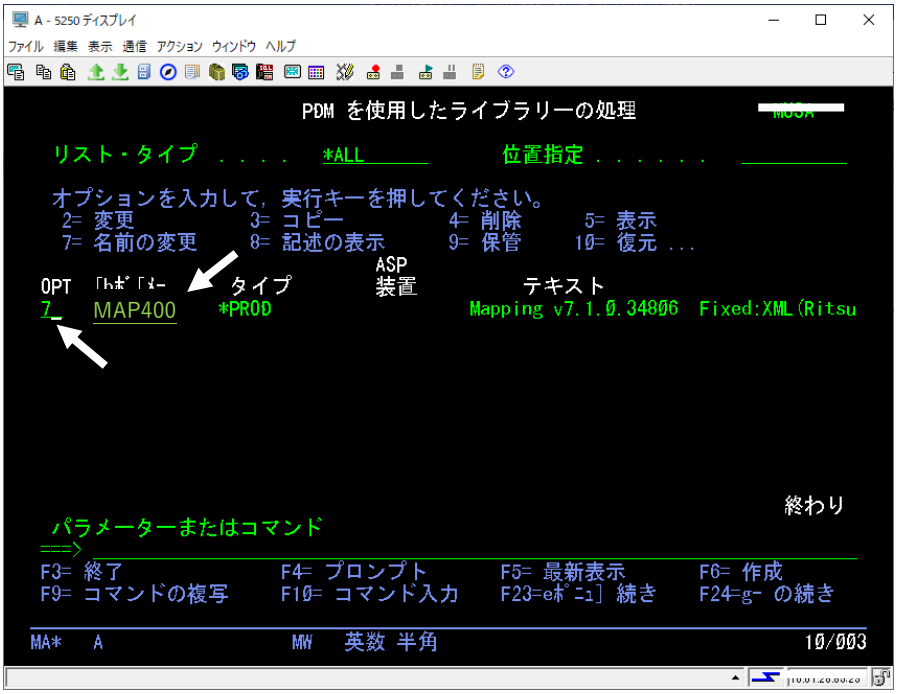
   CHGJOB CCSID(5035)
4. 復元された Mapping Suite のライブラリ名を確認します。(以下では、デフォルトのライブラリ名である ”MAP400” としています。)
5. 次のコマンドを実行し、"MAPSROBOT" が停止していること(表示されないこと)を確認します。

   WRKACTJOB

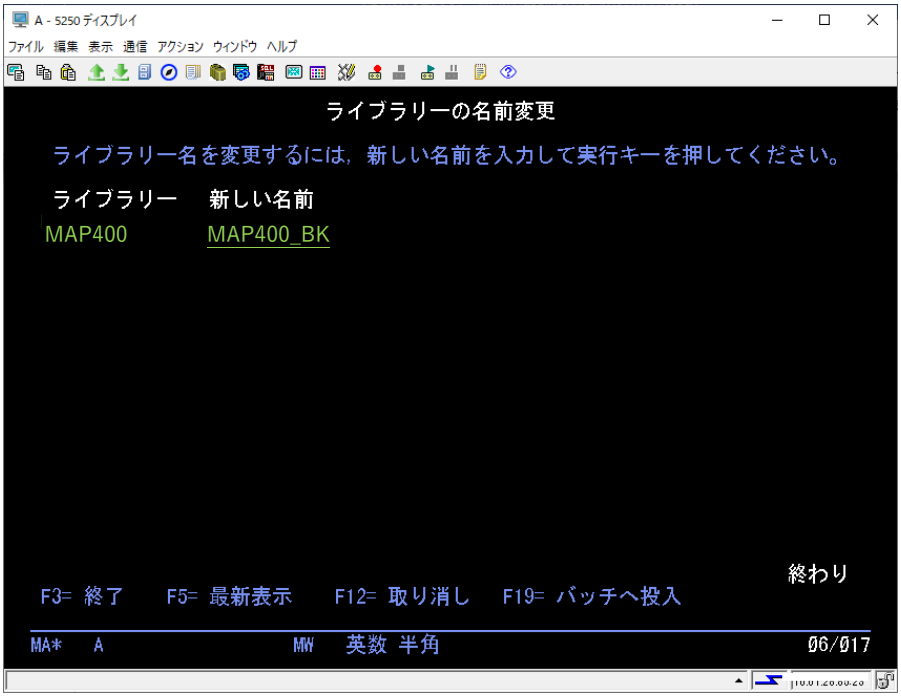
   注) 稼働していたら次のコマンドを実行して、ROBOT を停止します。

   ENDSBS SBS(MAPSROBOT) OPTION(*IMMED)
6. コマンドラインから ”STRPDM” を実行します。
7. 表示された画面で、” 1.ライブラリの処理”を選択して実行します。
8. 表示された画面で、”ライブラリ”に ”MAP400” を指定して実行します。

9. “MAP400” に対して ”7= 名前の変更” を指定して実行します。



10. 表示された画面で、"新しい名前” 欄に ”MAP400_BK” を指定して実行します。



11. 復元された IFS 上の Mapping Suite 用のフォルダー構成を確認します。(以下では、デフォルトの構成であると仮定しています。画面コピーを取得しておくと便利です。)
12. 『Mapping Suite OPALE_導入・利用ガイド』を参照して、Mapping Suite OPALE を、ライブラリ”MAP400”にインストールします。
    注1) インストール中に指定する IFS 上のフォルダー構成は、“MAP400_BK”のものと同じにします。
    注2) インストール中に入力するライセンスキーは、新システム用のキーを使用します。

B. 帳票フォーマットを移行する

帳票フォーマットを一括して移行するには、”MAP400_BK” にある、次のファイルの内容を ”MAP400” にコピーします。

MAPLNK, MAPOBJ, MAP1, MAP2D, MAP2H, MAP3, MAP

ただし、Mapping OPALE V10.8.3.40228 から、MAP1 のフィールドが 1 つ増えていますので、ファイルのコピーには、次のように CPYF コマンドを使用します。

```
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAPLNK) TOFILE(MAP400/MAPLNK) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAPOBJ) TOFILE(MAP400/MAPOBJ) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAP1) TOFILE(MAP400/MAP1) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAP2D) TOFILE(MAP400/MAP2D) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAP2H) TOFILE(MAP400/MAP2H) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAP3) TOFILE(MAP400/MAP3) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAP) TOFILE(MAP400/MAP) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
```

C. OUTQ 設定ファイルを移行する

次のコマンドを実行して、”MAPOUTQ” の内容を "MAP400_BK" から ”MAP400” にコピーします。

```
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/MAPOUTQ) TOFILE(MAP400/MAPOUTQ) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
```

D. ROBOT 設定を移行する

次のファイルの内容を ”MAP400_BK” から ”MAP400” にコピーするために、次の CPYF コマンドを実行します。

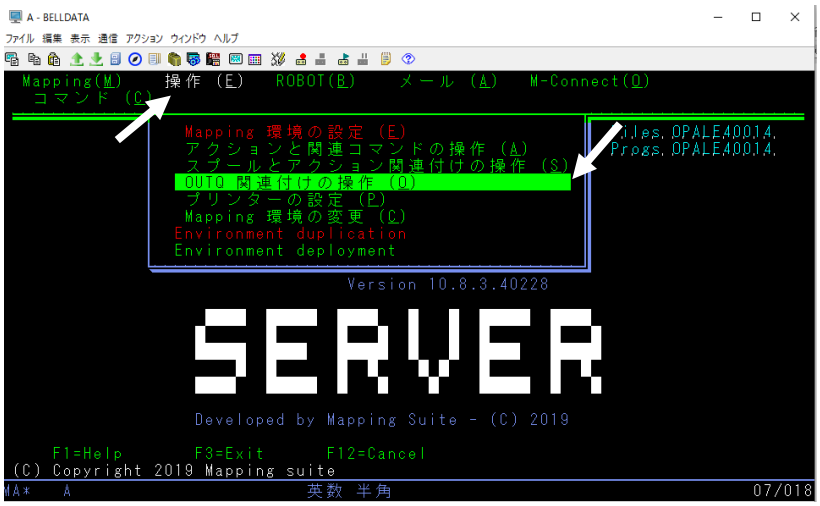
SPLMAP, ACTLIG, ACTION, OUTOUT

```
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/SPLMAP) TOFILE(MAP400/SPLMAP) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/ACTLIG) TOFILE(MAP400/ACTLIG) MBROPT(*REPLACE)
FMTOPT(*MAP *DROP)
```

CPYF FROMFILE(MAP400_BK/ACTION) TOFILE(MAP400/ACTION) MBROPT(*REPLACE) FMTOPT(*MAP *DROP)
CPYF FROMFILE(MAP400_BK/OUTOUT) TOFILE(MAP400/OUTOUT) MBROPT(*REPLACE) FMTOPT(*MAP *DROP)

データキューはコピーできないため、次の操作を行います。

1. Mapping OPALE のメニューで、"操作" → "OUTQ 関連付けの操作" 画面を表示します。



2. "DTAQ" (データキュー) の値が異なる設定全てに対して、"2= 編集" を指定して実行します。作成確認用の画面が表示されるので、そのまま実行してデータキューを作成します。



E. SORTSIZUTF ファイルの CCSID を確認して、必要な場合は移行する

“MAPSORTPAG”コマンドを使用してスプールの分割を行っている場合、”SORTSIZUTF”ファイルの CCSID を”65535”に変更して使用している可能性があります。そのため、次のコマンドを実行して、” SORTSIZUTF” の CCSID を確認します。

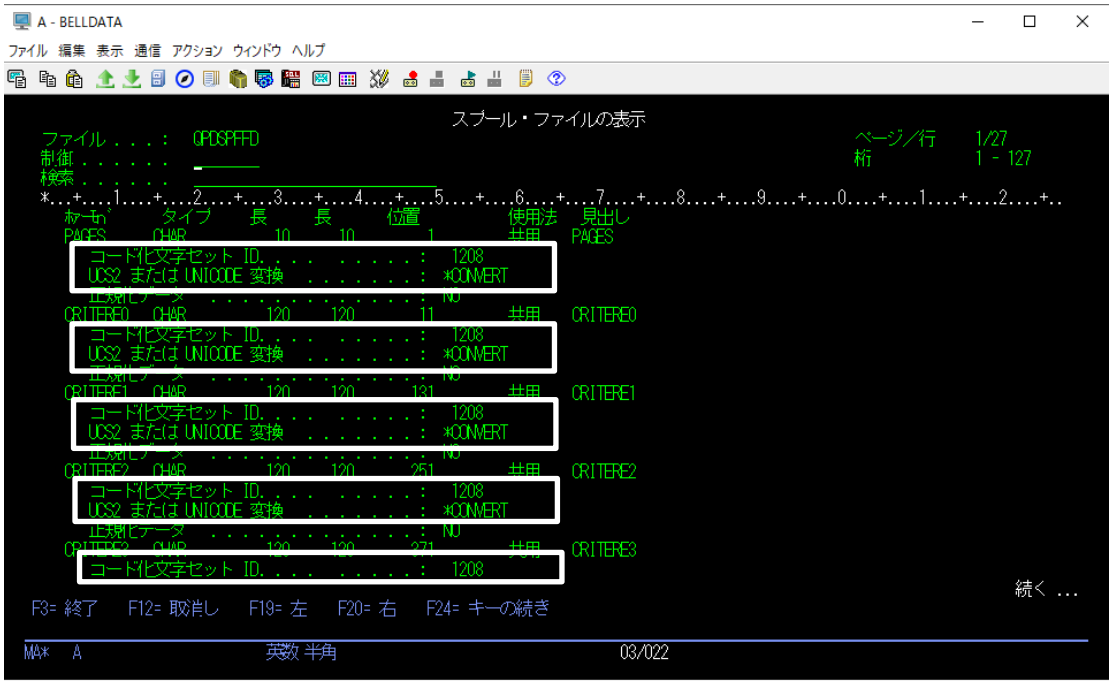
DSPFFD FILE(MAP400_BK/SORTSIZUTF)

次のような画面が表示されます。

<1 ページ目の画面>



<2 ページ目の画面>

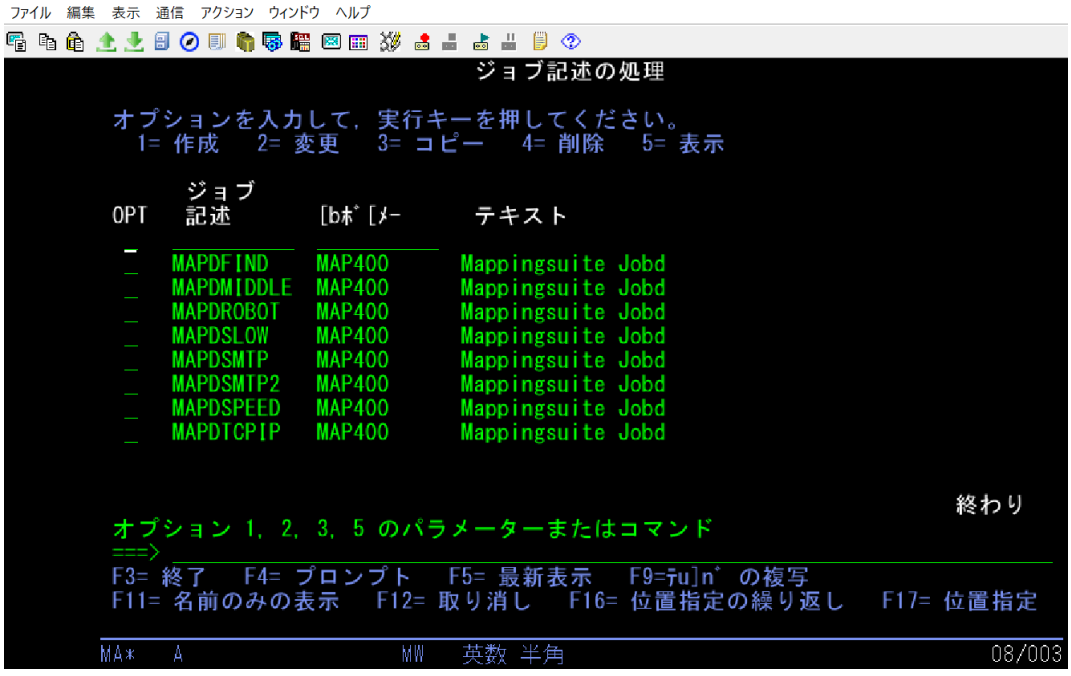


2 ページ目の画面に表示される”コード化文字セット”の値が、上の画面のように”1208”であれば、Mapping V6/V7 の初期状態なので、ファイルを移行する必要はありません。
もし、”コード化文字セット”の値が”65535”の場合は、独自に書き換えたファイルを使用していることになります。そのため、次のコマンドを実行して、”MAP400”ライブラリにある"SORTSIZUTF”を削除した後、"SORTSIZUTF”を "MAP400_BK" から ”MAP400” にコピーします。

```
DLTF FILE(MAP400/SORTSIZUTF)
CRTDUPOBJ OBJ(SORTSIZUTF) FROMLIB(MAP400_BK) OBJTYPE(*FILE)
TOLIB(MAP400) DATA(*YES)
```

F. ジョブ記述を確認して、追加されたジョブ記述があったら追加する

1. “MAP400_BK”ライブラリに対して、次のコマンドを実行して登録されているジョブ記述を確認します。
   WRKJOBD JOBD(MAP400_BK/MAP*)
2. 次のジョブ記述は Mapping 標準のものです。もし、それ以外のジョブ記述があったら、お客様環境に独自で追加されたものであることが分かりますので、この後の手順に従って、それらをコピーします。
   MAPDFIND
   MAPDMIDDLE
   MAPDROBOT
   MAPDSLOW
   MAPDSMTP
   MAPDSMTP2
   MAPDSPEED
   MAPDTCPIP

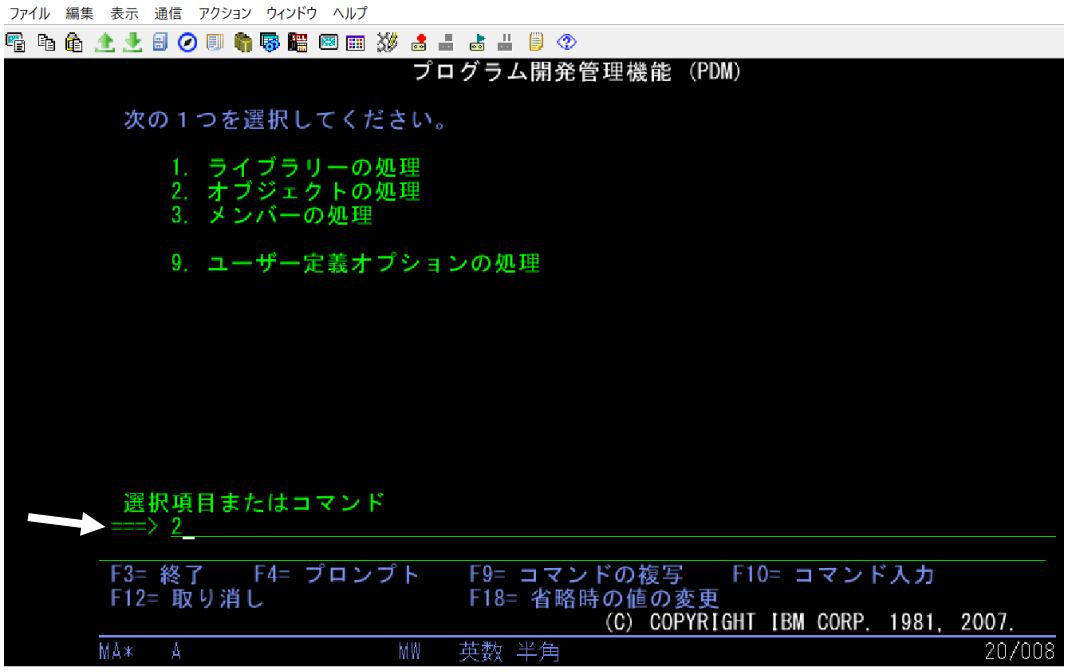


3. 独自に追加されたジョブ記述に対して、”3= コピー”を実行すると次の画面が表示されます。” TO ライブラリ”に”MAP400”を入力して実行します。(画面の値は、追加されたジョブ記述が、”MAPDXSPEED”の場合です。)



4. ジョブ待ち記述には、紐付けられたジョブ待ち行列がありますので、それを確認して追加します。コマンド・ラインから、次のコマンドを実行すると次の画面が表示されるので、”2” オブジェクトの処理を入力して実行します。

   STRPDM

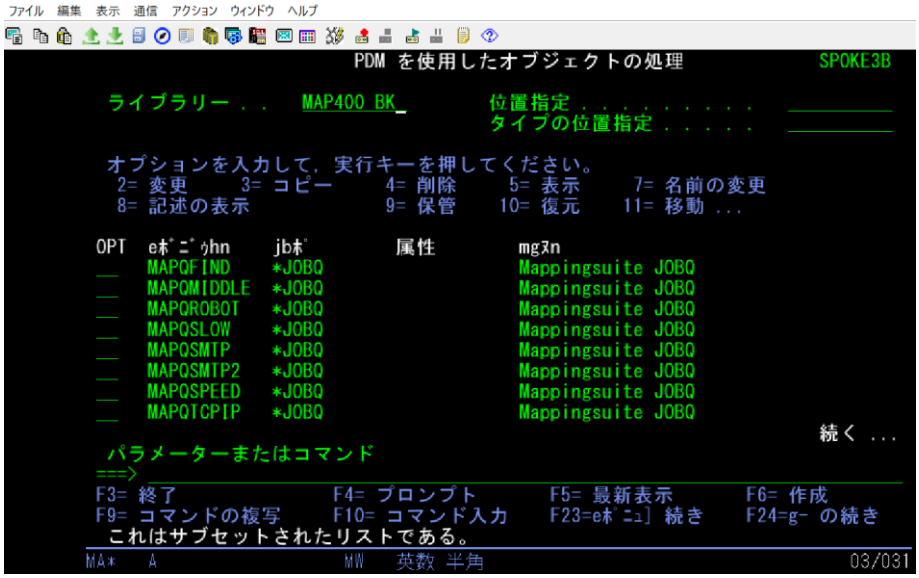


5. 次の画面が表示されるので、ライブラリ欄に”MAP400_BK”、オブジェクトの名前欄に”MAPQ*”を入力して実行します。

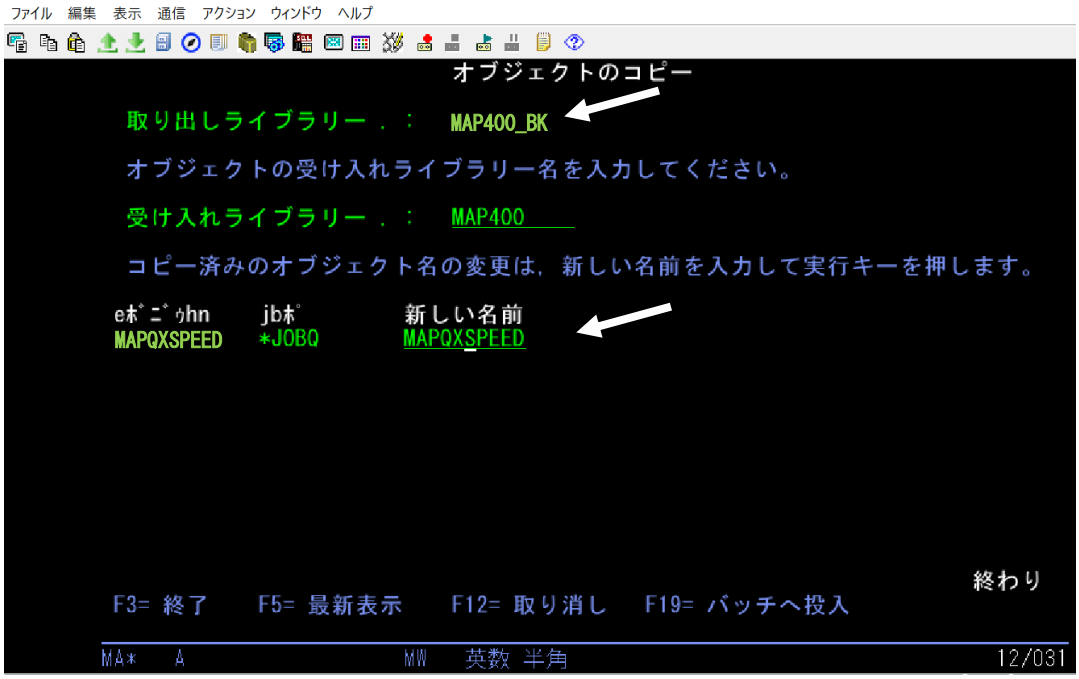


6. 次の画面に表示されたジョブ待ち行列(*JOBQ)の内、次のものは Mapping 標準のものです。もし、それ以外のジョブ待ち行列があったら、お客様環境に独自で追加されたものであることが分かります。

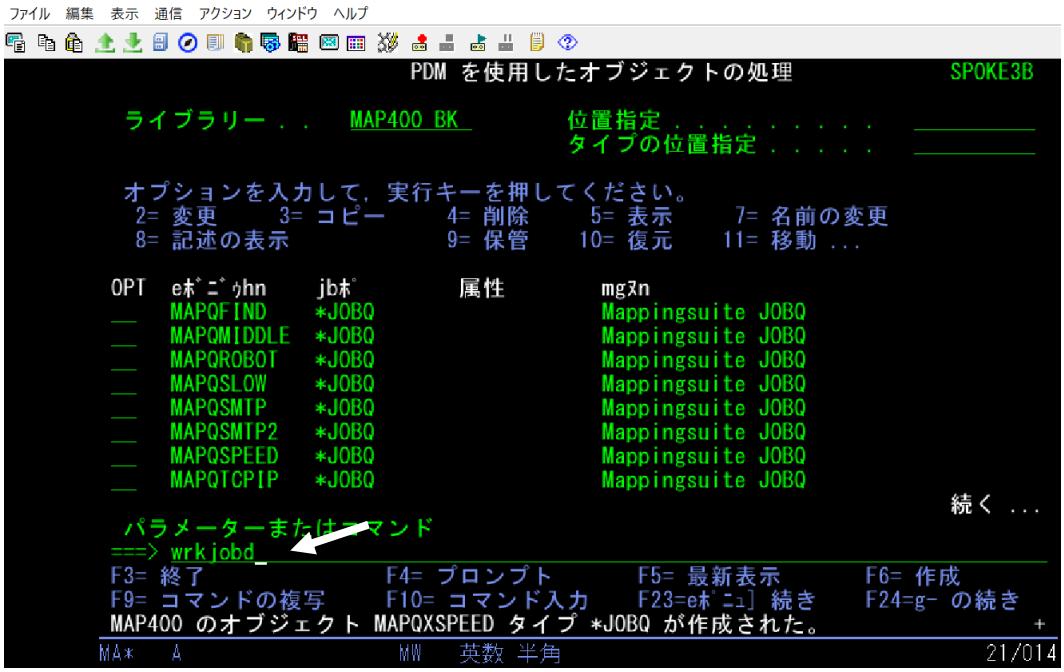
MAPQFIND
MAPQMIDDLE
MAPQROBOT
MAPQSLOW
MAPQSMTP
MAPQSMTP2
MAPQSPEED
MAPQTCPIP



7. 独自に追加されたジョブ待ち行列に対して、”3= コピー”を実行すると次の画面が表示されます。受け入れライブラリ欄に”MAP400”、新しい名前欄に同じジョブ待ち行列名を入力して実行します。(画面の値は、追加された待ち行列が”MAPQXSPEED”の場合です。)



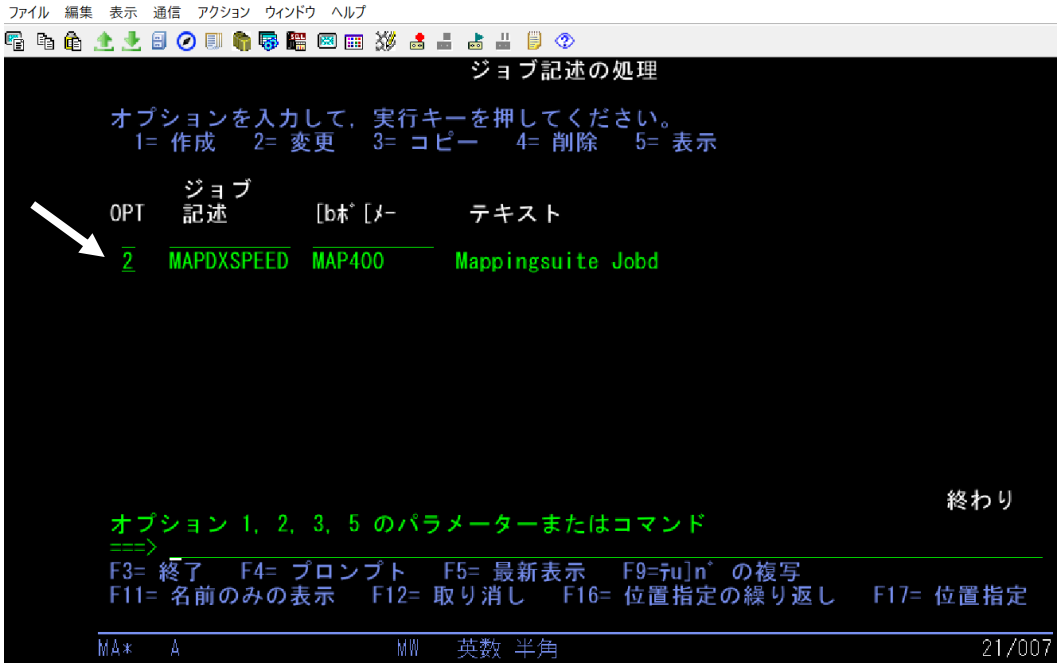
8. ジョブ記述とジョブ待ち行列を関連付けるため、”WRKJOBD” と入力して、F4 キーを押します。



9. この例では、”ジョブ記述” 欄に”MAPDXSPEED”、”ライブラリ” 欄に ”MAP400”を入力して実行キーを押します。



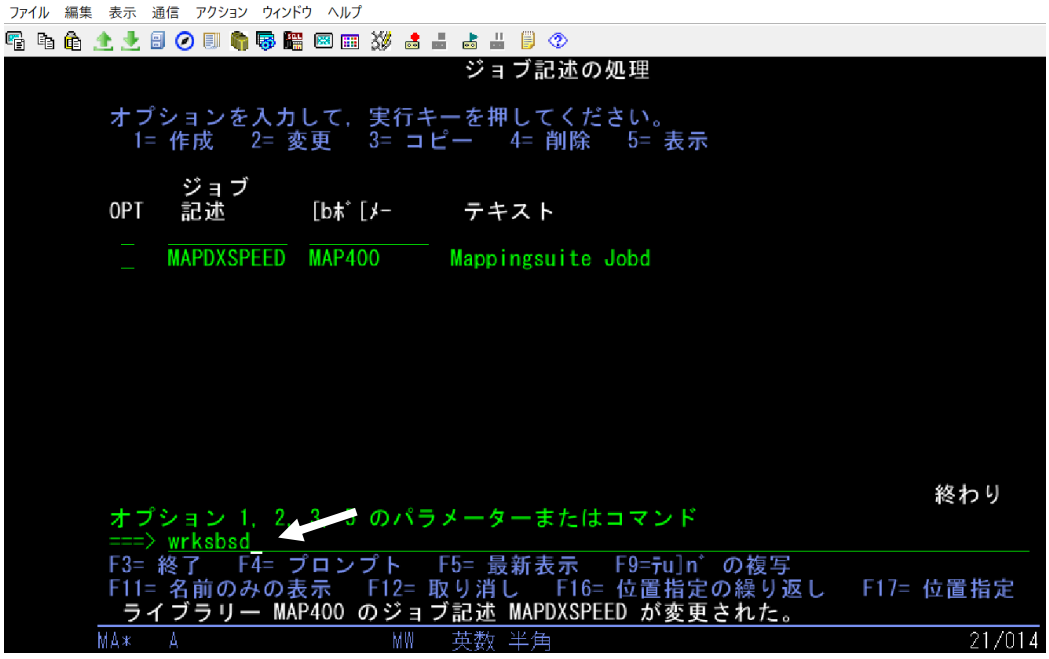
10. 表示されたジョブ記述に対して、”2”(変更)を入力して実行キーを押します。



11. ”ジョブ待ち行列” 欄に ”MAPQXSPEED”、”ライブラリ”欄に “MAP400” を入力して、実行キーを押します。



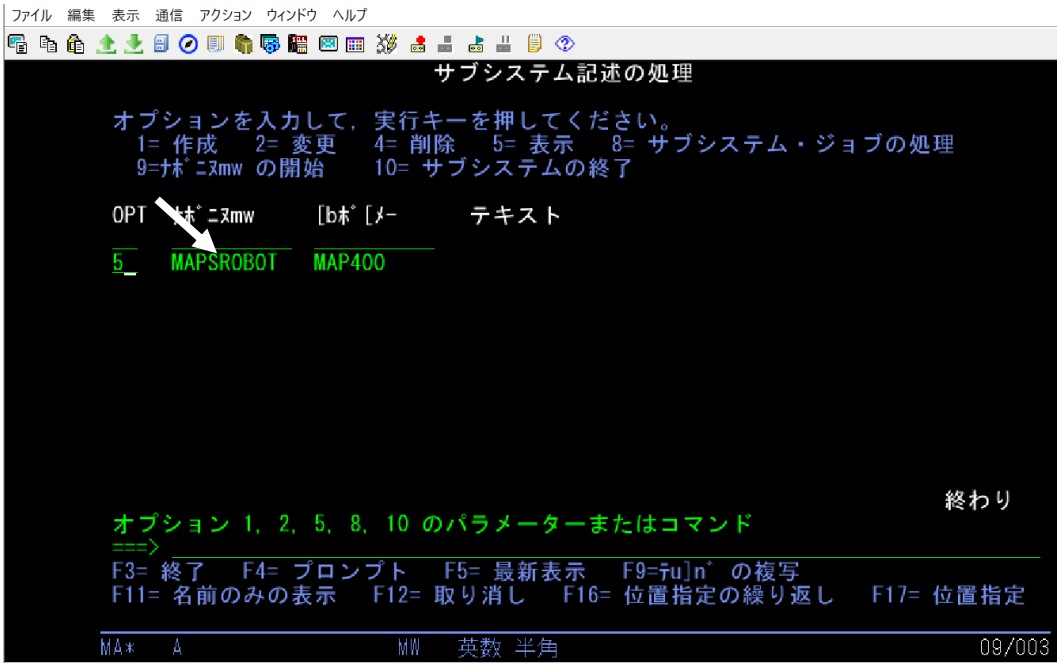
12. 新しく定義した ”MAPDXSPEED” を ROBOT に登録するために、”WRKSBSD” と入力して F4 キーを押します。



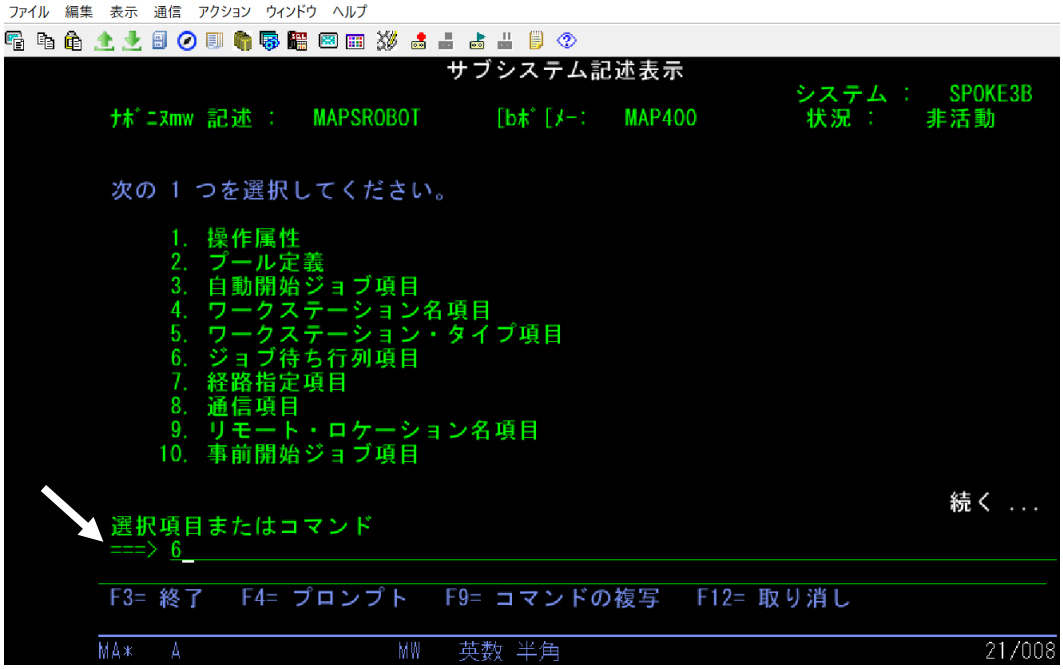
13. 表示された画面の”サブシステム記述” 欄に ”MAPSROBOT”、”ライブラリ”欄に ”MAP400” を入力して実行キーを押します。



14. 表示された画面の“MAPSROBOT”に対して、”5”(表示)を入力して実行キーを押します。



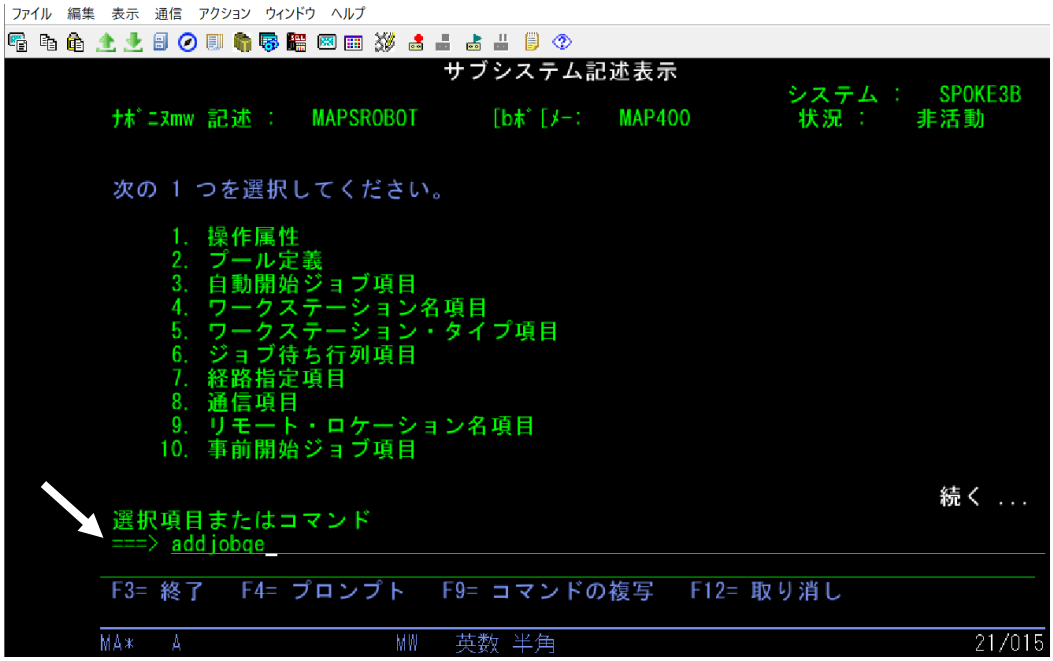
15. 表示された画面で、”6”(ジョブ待ち行列項目)を入力して実行キーを押して、ジョブ待ち行列の一覧を表示します。



16. 次のように表示された画面では、SEQ 番号”25”が未使用であることが分かりますので、ジョブ待ち行列”MAPQXSPEED”には”25”を、割り当てることにします。



17. 実行キーを押して画面を閉じた後、”ADDJOBQE” と入力して、F4 キーを押します。

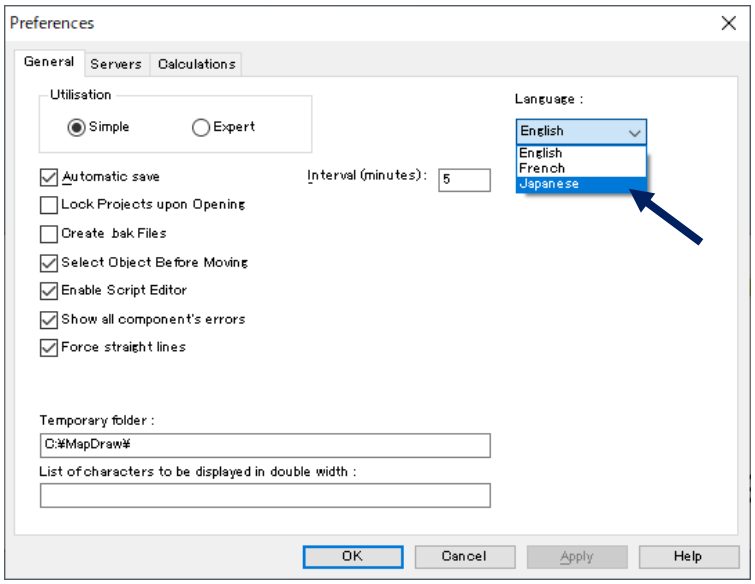


18. 表示された画面で、それぞれの欄に次の値を入力して、実行キーを押します。
    - サブシステム記述 : MAPSROBOT (ライブラリ : MAP400)
    - ジョブ待ち行列 : MAPQXSPEED (ライブラリ : MAP400)
    - 活動ジョブの最大数 : 1
    - 順序番号 : 25

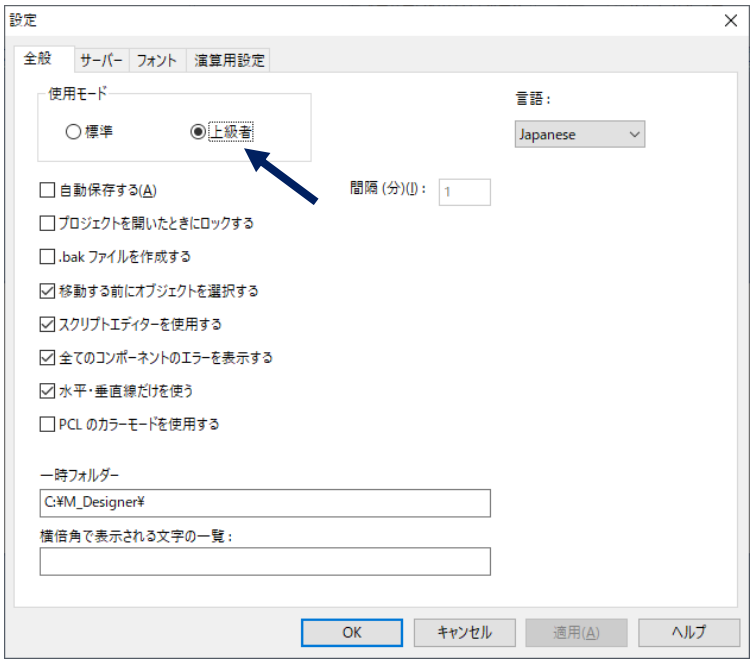


G. M-Designer をインストールし、設定する

1. 『M-Designer 導入・研修ガイド』に従って、PC に M-Designer をインストールします。
    1. MapDraw を使用していた PC を引き続き使用する場合には、MapDraw を前もってアンインストールしてください。
    2. その際に、PC の Windows ”設定” メニュー → "アプリ” からアンインストールした後、レジストリー・エディターを使って、レジストリーの中の “¥HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥Mapping” を削除してください。（レジストリーの編集操作には、十分ご注意ください。）
2. M-Designer を起動すると、初めは英語モードの画面となります。ホーム・ボタンを押してから右下にある”Preferences”ボタンを押すと表示される、次の画面で”Language”欄の値を”English”から”Japanese”に変更します。その後、M-Designer を再起動することによって、画面は日本語モードに切り替わります。



3. Mapping Suite V6 から移行する場合や、MapDraw でフォーマットのプロパティの ”言語” に ”PCL5” や ”ZEBRA” を指定していた場合、M-Designer でも同様の指定を行うためには、”設定” → “全般” 画面で、”使用モード” を "上級者” に変更した後、M-Designer を再起動します。
注) Mapping Suite V7 からの移行で、MapDraw のフォーマットのプロパティの ”言語” に、デフォルトの “XPS” を指定していた場合には、この設定変更と再起動は不要です。



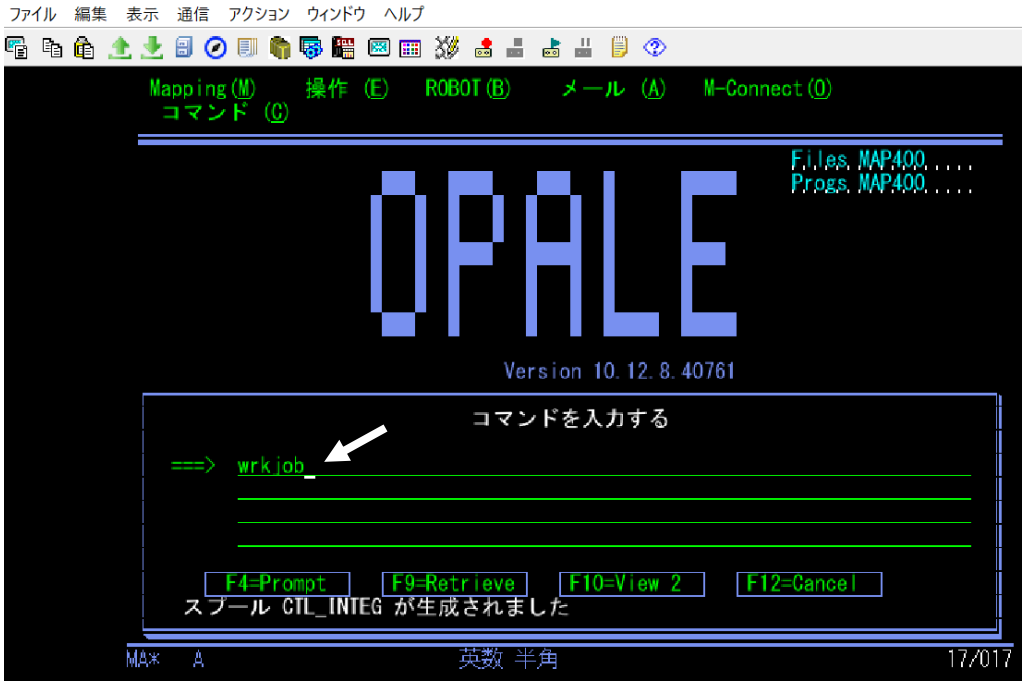
4. 共有フォルダーとサーバーの接続に“FTP 接続”を使用する場合には、新システムの IFS の /home/mapping/docpc/にあるファイルを、PC 側の¥mapping¥docpc フォルダーにコピーします。

H. フォーマットの取り込みテストを行う

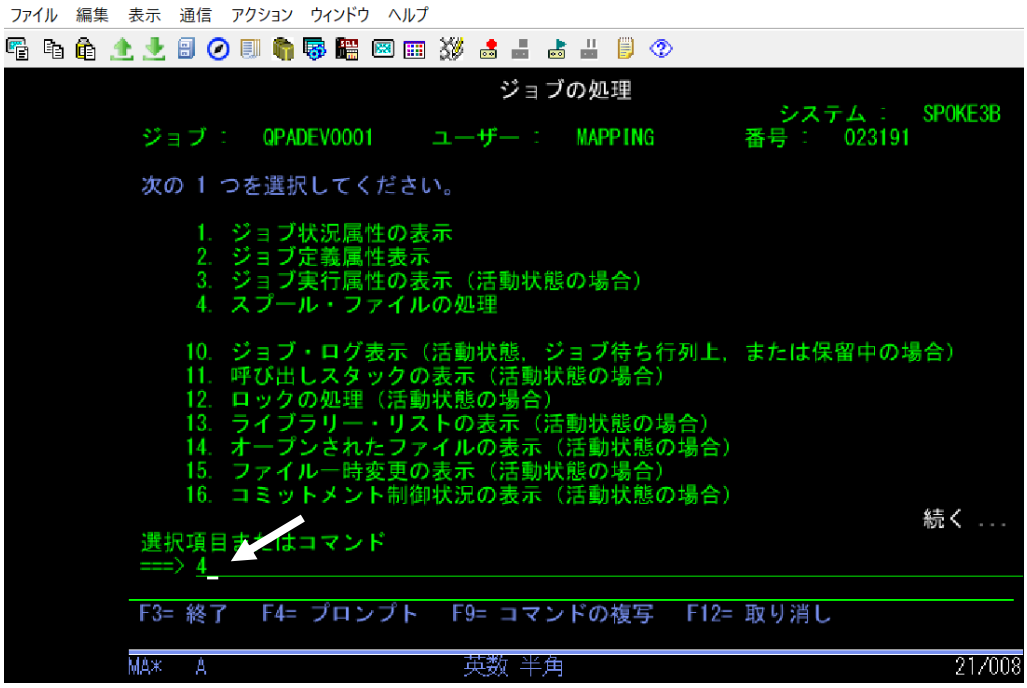
複数のフォーマット間の内部構成の不整合に起因する問題を防ぐため、Mapping Suite OPALE では、フォーマットのチェックを Mapping Suite V6 や V7 よりも厳しく行っています。その影響で、移行作業後に編集したり追加したりしたフォーマットを取り込む際に、Mapping Suite OPALE が既存のフォーマットをチェックした結果、「lstobj.txt ファイルの原因で取り込みできません」というエラー・メッセージを表示して、取り込みできないという問題が発生する例が多く見られます。そのような場合の対応には、次の作業を行います。

1. Mapping メニューのコマンド → システムコマンドを選択して、コマンドラインから”CHKENV”を実行します。

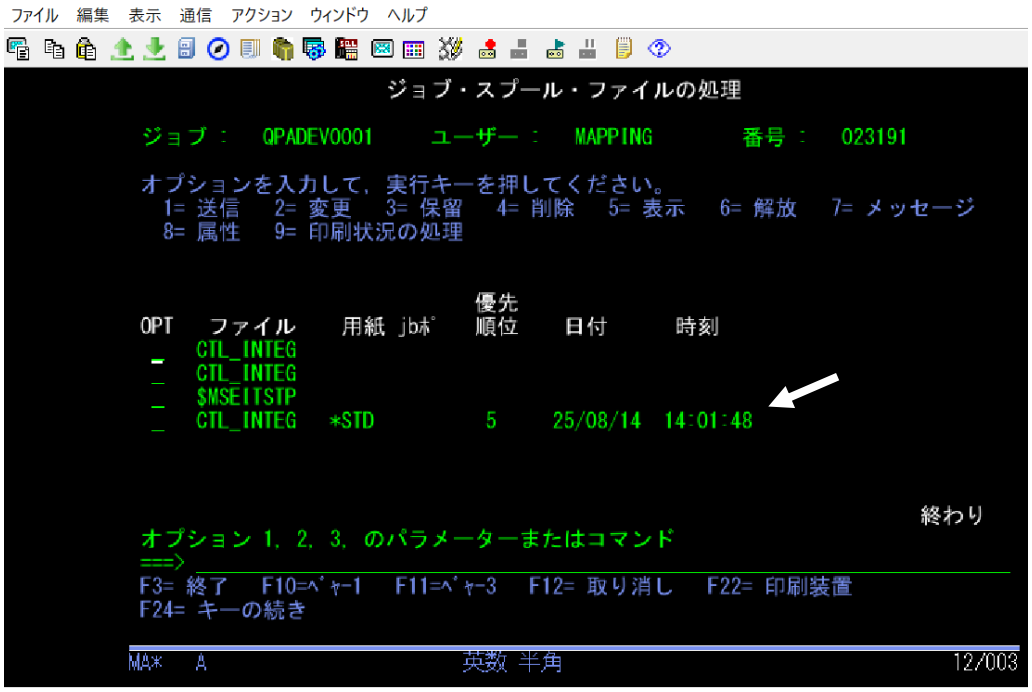
2. 少し待つと、”A spool file CTL_INTEG has been generated”というメッセージが表示されます。このスプール”CTL_INTEG”の中に、問題のあるフォーマット名がリストされます。それを確認するために、コマンドラインから”WRKJOB”を実行して、このスプールの保管された場所を確認します。



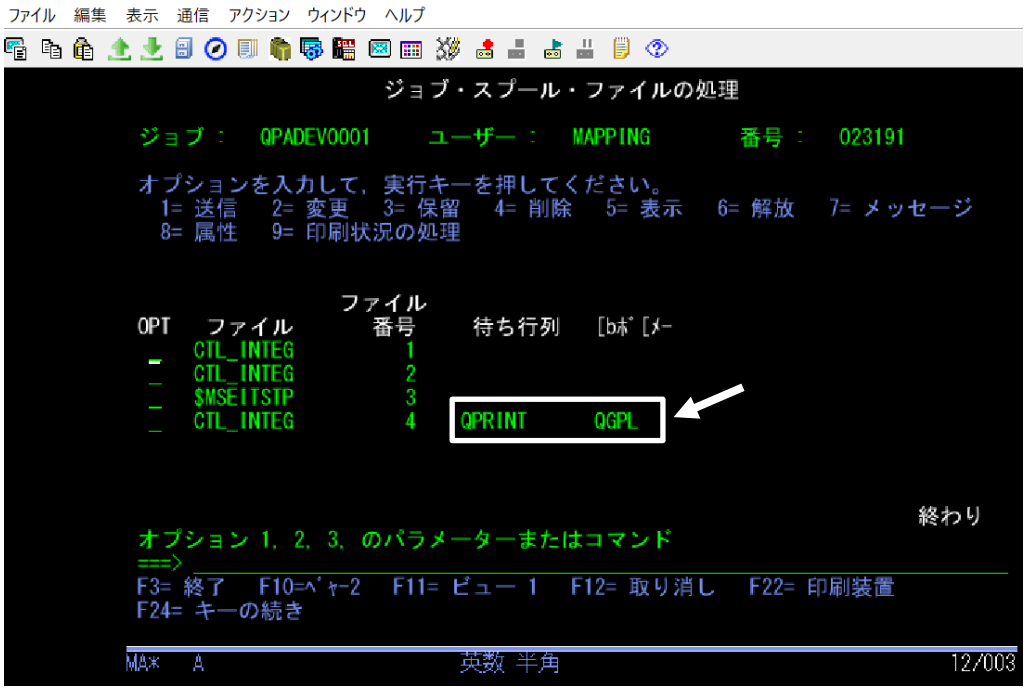
3. 表示された画面で、”4”(スプール・ファイルの処理)を指定して、実行します。



4. 表示された画面で、F11(ビュー2)キーを押すと、作成されたスプールの日付と時間が分かります。



5. 更に F11(ビュー3)キーを押すと、次のような画面に、スプールが保管されている待ち行列(OUTQ)とライブラリが表示されます。(この例では、ライブラリ"QGPL"、OUTQ"QPRINT")



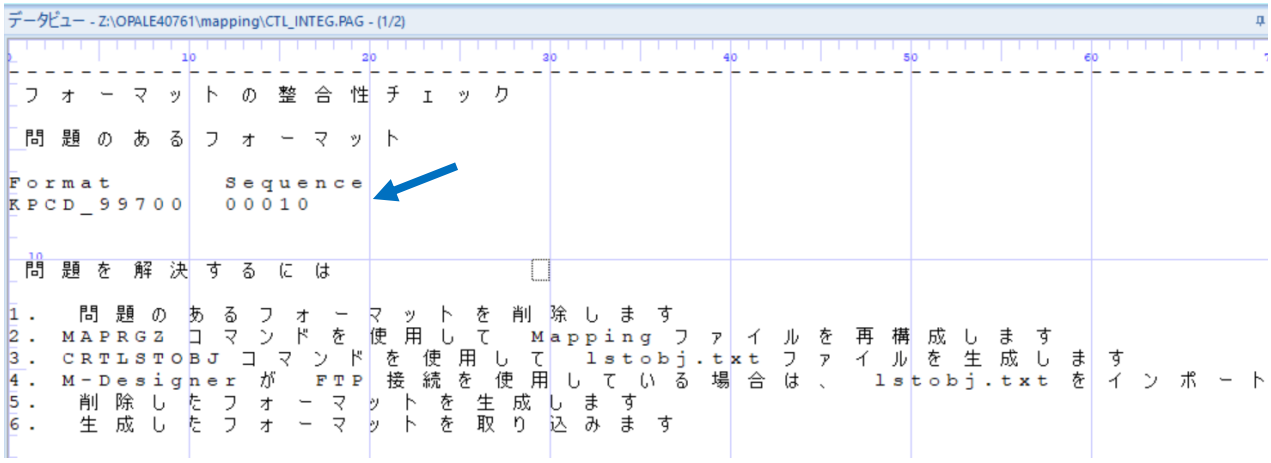
6. これらの情報を元に、Mapping メニューの”スプールの操作”画面で、ユーザー「*ALL」、OUTQ 名、ライブラリ名、スプール名(CTL_INTEG)を入力して実行します。



7. 作成された”CTL_INTEG”に対して P=PC への送信を指定して実行します。（コードページには”1027”を指定すると、M-Designer 上で英小文字が正しく表示されます。）



8. M-Designer 上で、生成された”CTL_INTEG.pag”ファイルを読み込むと、次のような画面が表示されます。この例ではフォーマット”KPCD_99700」に問題があることが分かります。



9. そこで、Mapping メニューの “Mapping” → “Mapping フォーマットの操作”を選択して実行し、表示されたフォーマットの中から、該当するフォーマットに対して、”4= 削除”を実行します。
注) CTL_INTEG ファイルに削除対象とされたフォーマットの一部が、Mapping フォーマットの操作画面に表示されない場合があります。そのような場合には、手順”14”に進んでください。



10. Mapping メニューの “コマンド” → “システムコマンド”を指定して、”MAPRGZ”コマンドを実行します。これは Mapping Suite OPALE が使用するファイルの再構成を行うものです。
11. 続けて、”CRTLSTOBJ”コマンドを実行して、lstobj.txt ファイルを再作成します。
12. M-Designer の共有フォルダーに FTP 接続を使用している場合には、M-Designer の設定画面のサーバー・タブにある”lstobj.txt のインポート”を行って、”11”で再作成した lstobj.txt ファイルに置き換えます。
注) 共有フォルダーに、IFS 上の”/mapping”フォルダーを指定している場合には不要です。

13. “5”で削除したフォーマットのプロジェクト・ファイルを一つ M-Designer で開いて、プロジェクトの生成を行い、Mapping メニューの”Mapping” → “Mapping フォーマットの取り込み”を行います。問題なく取り込めたら、エラーが発生して取り込めなかった他のプロジェクトの生成を行って、フォーマットを取り込みます。
    注) M-Designer を使用している PC のアンチ・ウィルス・ソフトと Windows のファイア・ウォールが原因で、正しくプロジェクトの生成が行えないことがあります。そのような場合は、それらを一時的に停止してから、プロジェクトの生成を行ってください。

<”Mapping フォーマットの操作”画面に表示されないため、削除対象のフォーマットが削除できない場合>
次の手順に従って、フォーマットのみを保管する新規のファイル・ライブリを作成し、そこへ必要なフォーマットを全て取り込みます。その後、”B.帳票フォーマットを移行する”に記載したコマンドを使用して、新規のファイル・ライブラリからライブラリ MAP400 に、必要なファイルを置き換え保存します。

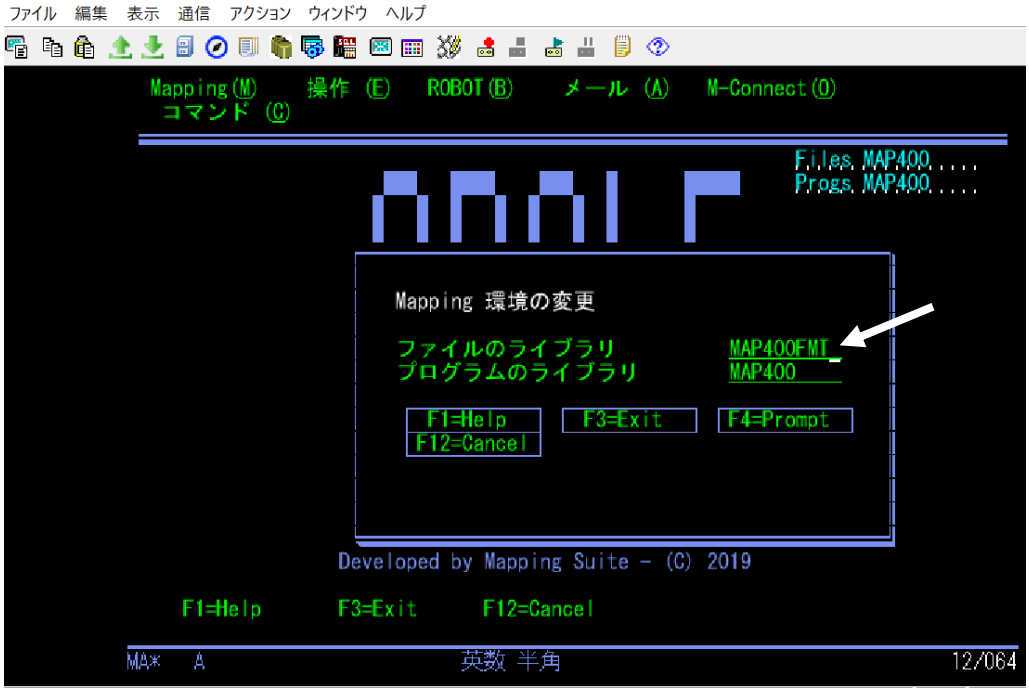
14. Mapping フォーマットの操作画面のフォーマットの中から、フォーマットを一つ選択し、3=コピーを指定して実行します。



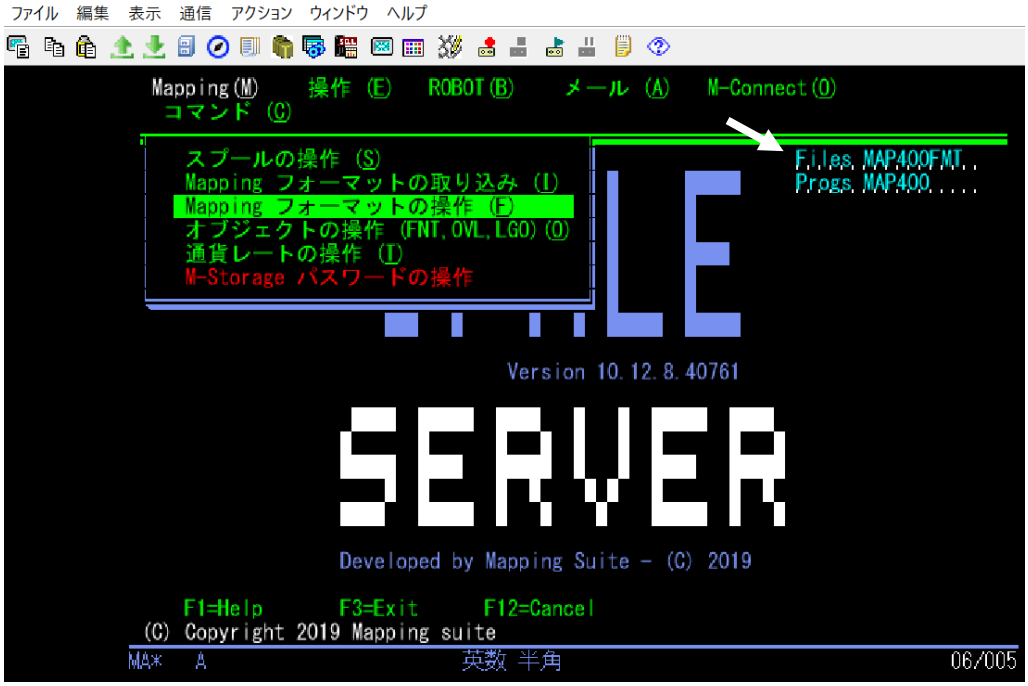
15. 表示された画面の宛先ライブラリ欄に、既存にはない任意のライブラリ名(この画面例では”MAP400FMT”)を入力し、実行します。
注) Mapping OPALE は、ここで指定した名前のライブラリを自動的に作成しますので、予め用意する必要はありません。



16. Mapping メニューの”操作” → “Mapping 環境の変更”を選択して、実行します。表示された画面で、ファイルのライブラリ欄に手順”15”で作成したファイル・ライブラリ名を入力して 2 回実行キーを押します。



17. 表示された初期画面右上の”Files”の値が、指定したファイル・ライブラリ名に変更されたことを確認したら、”操作“ → “Mapping フォーマットの操作”を選択して実行します。



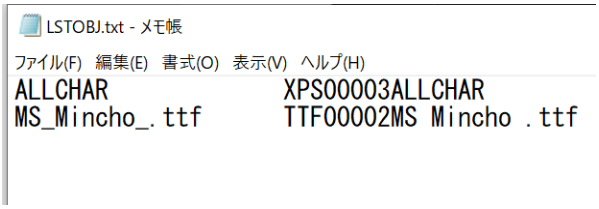
18. 手順”15”でコピーしたフォーマットのみが保管されていることを確認したら、F3 キー、または F12 キーを押して画面を閉じます。



19. Mapping メニューのコマンド → システムコマンドを選択して、コマンドラインから”CHKENV”コマンド、"MAPRGZ”コマンド、続けて”CRTLSTOBJ”コマンドを実行して、ファイル・ライブラリ”MAP400FMT”に基づく”lstobj.txt”ファイルを作成します。



注) lstobj.txt ファイルをメモ帳で開くと、次のようにコピーしたフォーマットと、それに使用されているフォントのみがリストされていることを確認できます。



20. 他のフォーマットのプロジェクト・ファイルを一つ選択して M-Designer から生成し、フォーマットの取り込みを行います。その後、Mapping メニューから、”操作” → “Mapping フォーマットの操作”を選択して、取り込んだフォーマットが追加されたことを確認します。
21. 同様にして、M-Designer から、必要なフォーマットのプロジェクト・ファイルを生成し、フォーマットの取り込みを行います。その後、”B.帳票フォーマットを移行する”に記載したコマンドを使用して、新しいファイル・ライブラリ(この例では、”MAP400FMT”)から既存の”MAP400”ライブラリに置き換えコピーします。
22. 置き換えコピーが完了したら、手順”16”と同様にして、ファイル・ライブラリを”MAP400FMT”から”MAP400”に戻します。そして、一つのフォーマットを選択して、M-Designer からプロジェクトの生成 → フォーマットの取り込みを行い、問題なく取り込めることを確認します。

以上で、移行作業は完了です。

第 4 章 稼働確認テストを行う

1. Mapping Suite OPALE のメニュー “ROBOT” → “ROBOT を起動する”を選択し、表示された画面で “ログの開始” に ”*YES” を指定して、実行します。
2. コマンドラインから、“WRKACTJOB” を実行し、”MAPSROBOT" と、その下のデータキューが起動していることを確認します。
3. 通常の Mapping を使った処理と同じ操作を行い、既存システムと同じ結果が新システムから得られることを確認します。
   注) 特に文字抜け、ページ抜けが無いかに着目して検証します。
4. 問題が無いことを確認できたら、Mapping Suite OPALE のメニュー “ROBOT” → “ROBOT を終了する”を指定し、更に”END タイプ” に ”*IMMED” を指定して実行することで、ROBOT を停止します。その後、“ログの開始”に ”*NO” を指定して ROBOT を再起動します。

もし問題があったら

もし問題があったら、次のようにして原因の切り分けを行って対処します。

1. 印刷されない場合
   1.1 プリンターの OUTQ に印刷データのスプールが保管されているか確認します。
   1.2 保管されているにも関わらず印刷されないのであれば、ライターが起動しているか、OUTQ の設定の中のプリンターの IP アドレスが正しいかを確認します。
   1.3 保管されていない場合は、PDF の印刷であれば IFS 上の指定箇所に PDF ファイルが生成されているかを確認します。
   1.4 何れの場合でも ROBOT のログを調べて、どの段階の処理で問題が発生したかを確認して、その原因に対処します。
2. PDF ファイルが生成されない場合
   ROBOT のログを調べて、どの段階の処理で問題が発生したかを確認して、その原因に対処します。
3. 印刷結果や PDF ファイルの内容に問題がある場合
   3.1 対象となるスプールとフォーマットを確認して、M-Designer のプレビュー画面の結果と比較します。
   3.2 プレビューの結果にも同様の問題が確認できたら、帳票設計を修正してプロジェクトを生成し、フォーマットの取り込みを行います。
   3.3 プレビューの結果が正しかったら、手動でコマンドを実行し、その結果と比較します。
4. “MAP400_BK”では正しい結果が得られるが、"MAP400”では得られない場合は、Mapping Suite OPALE に原因がある可能性が考えられます。
   → 上記 ”1” から ”3” の処置を行っても解消しない場合には、Mapping 問い合わせ窓口にご相談ください。

Mapping OPALE への移行チェックリスト兼作業報告書

A. お客様名：

B. 作業日時：　　～　　まで

C. 作業担当者：会社名　　名前

D. 作業内容(チェックリスト)

1. ☐ 新システムに対応した、Mapping Suite OPALE のライセンスキーを準備した。
2. ☐ 現行システム上の Mapping のライブラリ(通常は ”MAP400”)とその関連ライブラリ、及び、IFS 上の /home/ 以下にある Mapping 関連フォルダーやファイルが新システムに復元されている。併せて名称を確認した。ライブラリ名 _____
3. ☐ 新システムの IFS /home 以下は共有設定されている。
4. ☐ WRKENVVAR コマンドを使用して、DBCSSIZE2 の値が 1 であることを確認した。
5. ☐ WRKOUTQ コマンドを使用して、”PRT01” という OUTQ がライブラリのどれかに存在することを確認した。ライブラリ名_____
6. ☐ ”QSECOFR”等の*SECOFR 権限を持つユーザーID を使用している。
7. ☐ 5250 画面セッションは、”画面サイズ”が「27x132」、”ホスト・コード・ページ”は、「939」を指定して新システムと接続している。
8. ☐ CHGJOB CCSID(5035) を実行した。
9. ☐ 新システム上に復元されたライブラリ "MAP400" の ROBOT が停止している。
10. ☐ STRPDM 画面を使ってライブラリ “MAP400” をリネームした。リネーム後の名前は、MAP400_____
11. ☐ Mapping Suite OPALE をライブラリ ”MAP400” にインストールした。
12. ☐ インストールする際に、IFS 上のフォルダー構成は現行システムのものと揃えた。
13. ☐ CPYF コマンドを使用して、以下のファイルの内容を MAP400 にコピーした。

    ☐MAPLNK　☐MAPOBJ　☐MAP1　☐MAP2D　☐MAP2H

    ☐MAP3　☐MAP　☐MAPOUTQ　☐SPLMAP　☐ACTLIG

    ☐ACTION　☐OUTOUT

15. ☐ “SORTSIZUTF”の CCSID を確認した。CCSID の値 _____

□ “65535”の場合、”MAP400”上の”SORTSIZUTF”を削除し、”MAP400_BK”の”SORTSIZUTF”をコピーした

16. □ “MAP400” のメニューの ”OUTQ 関連付けの操作”画面を使って、全てのデータキューを再作成した。
17. □ジョブ記述に独自のものが追加されているか確認して、必要に応じて追加した。
18. □ジョブ記述に対応するジョブ待ち行列を追加し、ROBOT に登録した。
19. □フォーマットの取り込みテストを実施した。
20. □エラーが発生した場合の対処を行い、エラーが発生しなくなったことを確認した。
21. □ M-Designer をインストールし、設定した。
22. □ FTP 接続テストと "lstobj.txt のインポート” を完了した。(FTP 接続の場合)
23. □ IFS の/home/mapping/docpc/にあるファイルを、PC 側の¥mapping¥docpc フォルダーにコピーした。(FTP 接続の場合)
24. □ “ログの開始” に ”*YES” を指定して、ROBOT を起動した。
25. □ コマンドラインから、“WRKACTJOB” を実行し、”MAPSROBOT" と、その下のデータキューが起動していることを確認した。
26. □ 通常の Mapping を使った処理と同じ操作をお客様に行っていただき、既存システムと同じ結果が新システムから得られことを確認した。
27. □ ROBOT を停止して、“ログの開始” に ”*NO” を指定して ROBOT を再起動した。

以上です。

変更の履歴

- 第 1 版 : 初版
- 第 1.1 版
  - ➢ 現行システム上の Mapping Suite のライブラリ名や IFS のフォルダー構成について、事前の確認作業を追加しました。
- 第 2 版
  - ➢ Mapping OPALE 10.8.3.40228 のリリースに合わせて、ファイルの移行方法を、CPYF コマンドを使用する方法に大幅に変更しました。
  - ➢ SORTSIZUTF ファイルの CCSID を確認して、必要な場合は移行する手順を追加しました。

  第 2.1 版
  - ➢ ジョブ記述を独自に追加しているお客様の例に応じて、ジョブ記述のコピー、ジョブ待ち行列の追加、両者の関連付けの手順を追加しました。

  第 3 版
  - ➢ フォーマットの取り込みエラーが発生した際に、削除対象のフォーマットがリストされない場合の対応方法を追加しました。

  第 3.1 版
  - ➢ 復元された旧バージョンの MAP400 ライブラリがリネームできない場合の対応方法を、「第 1 章 作業開始を開始するための条件を確認する」に追記しました。